

アブダクション研究会の皆様
顧問の皆様
会友の皆様
社会人・学生の皆様

2019・10・14

アブダクション研究会
代表・世話人 福永 征夫

TEL & FAX 0774-65-5382

E-mail : jrfd117@ybb.ne.jp

事務局 岩下 幸功

TEL & FAX 042-35-3810

E-mail : chaino@cf6.so-net.ne.jp

■ホームページ■

<http://abductionri.jimdo.com/>

■次回・第129回アブダクション研究会は
2019/11/16（土）＝3331アーツ千代田で開催します■

【1】次回・第129回アブダクション研究会

■2019年11月16日（土）13時～17時に、3331アーツ千代田（末広町）2階
会議室で開催しますので、積極的にご参加ください。

■テーマ：『「生命の歴史は繰り返すのか？進化の偶然と必然のナゾに実験で挑む」
ジョナサン・B・ロソス著＝的場知之訳／2019・化学同人＝を輪読研究して「進化
とは何か」を考える』

■当初の計画では、次のテーマを予定していましたが、このテーマは先送りしますので、ご了
解ください。

『「量子が変える情報の宇宙----Information : The New Language of Science」ハンス・クリスチャン・フォン・バイヤー著＝水谷淳訳／2006・日経BP社＝を輪読研究して「情報理論とは何か」を考える』

ヒトを含め、いま存在する動植物は、必然的に生まれたのか、それともたまたま運良く進歩しただけなのか？

地球の生命史における最大のミステリーを実験で解決しようと奮闘する研究者によって、グッピーやショウジョウバエ、細菌、シカネズミ、そして著者自身のアノールトカゲの実験を通して、生命テープのリプレイがおこなわれた。

はたして、進化生物学における最新のブレイクスルーで、科学界屈指の大論争は解決できるのか。

■資料や会場など、準備の都合がありますので、できるだけ早く、世話人宛（jrfd117@ybb.ne.jp）に、出欠の連絡をしてください。

【2】前回・第128回アブダクション研究会

■2019年9月28日（土）13時～17時に、3331アーツ千代田（末広町）2階会議室で開催しました。

■テーマ：『持続可能性を確保する高深度・広域的で高次の知識と行動を考える(5)』

---「持続可能な環境・生活・仕事・能力」をめぐる

社会人・学生との対話を交えて ---

発表・司会： アブダクション研究会世話人 福永 征夫

協力：3331アーツ千代田

■残念ながら、三度目の今回も社会人・学生の皆様の応募はありませんでした。
3331アーツ千代田のご協力を得ながら、引き続き粘り強く取り組んでいく所存
です。

■当日は、大河原敏男氏、北村晃男氏、山中雅寛氏が出席されました。
皆様の積極的なご参画に敬意を表し、お礼を申し上げます。

■世話人の論稿『知の統合基盤の確立をめざして』からの抜粋資料に基づいて、
『自然の循環と融合の論理』の主要な論点を取り出して、その本質的な内容を説明
し、論議をしました。

(1) 原因と結果の線形的因果関係、全体と部分の間に螺旋状に働く循環的な因果
関係、複雑系の非線形のダイナミクス。

(2) 時間の情報と空間の情報の接続が反復し、情報の内容が変化していく。
自然は反復し変化して、エネルギーの最小化原理を貫いている。
また、情報の内容は変化し、フラクタル構造の接続を繰り返して、エネルギーの最
小化原理を貫いている。

(3) 生物の連綿たる進化史も、競争 (X or Y) という主として時間の情報と、協
力 (X and Y) という主として空間の情報からなるストーリー構造が螺旋状に積み

上がり、高次化して築かれてきている。

(4) 地球規模の難題群として、過不足がないと考えられる8つの課題。

(5) ルネ・デカルトの要素還元主義の徹底が領域学を発展させてきたが、これが文明の崩壊につながる可能性が高まっている。
広域学を発展させて、領域学と広域学を統合していくことが、人類の絶滅を回避することにつながる。

(6) 領域学に基づく「自己・人間」という部分域の最適化 (X or Y) と、広域学に基づく「他者・生態系」を含む全体域の最適化 (X and Y) という二つの相補的なベクトルが、共進化を達成して、融合して統合することがわれわれに与えられた進むべき道筋であろう。

(7) 量子力学がその初期から気づいた「相補性」を量子力学も、人類も現実の営みの中に生かし切っていないのである。

(8) ラティスの構造の四つの式の意味。

(9) ネットワークの構造を自己組織化する、フィード・フォワードの視点とフィード・バックの視点の連関性は、ラティスの構造の四つの式に起因する。

(10) 7月末の日本神経科学学会（朱鷺メッセ）で講演したニューヨーク大学のジェルジ・ブザーキ教授の” Brain from inside out, Brain from outside in” という考え方を紹介し、その重要性を指摘した。

■今後のアブダクション研究会のテーマの主たる方向性について、以下の項目をお示しいたしました。

- 持続可能性の確保
 - 人間の能力の発展
 - 進化
 - 知の細分化と統合
 - 脳の情報処理メカニズム
-

【3】その他

■世話人は、11/8（金）～11/10（日）に京都大学・経済学部を会場に開催される2019・日本シミュレーション&ゲーミング学会秋期大会において発表をさせていただくために、このほど、『自然の循環と融合の論理が知の統合を実現する』と題する論稿を同学会に提出させていただきました。アブダクション研究会のホーム・ページには、11/10（日）過ぎに、掲載していただく予定ですので、ご期待ください。

以 上